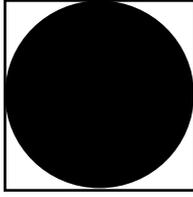


InSEA



公益社団法人 日本美術教育連合 ニュース

No. 170

2024. 4

〒113-0033 東京都文京区本郷2-30-14 文京ビル206号

公益社団法人 日本美術教育連合

発行人 理事長 大坪圭輔

ニュース担当 岩崎仁美

E-mail: info@insea-in-japan.or.jp

「自分が直接感じたものが尊い」 in 令和

公益社団法人 日本美術教育連合理事長 大坪圭輔

「自分が直接感じたものが尊い。そこから種々の仕事が生まれてくるものでなければならない」の言葉は、大正期の自由画教育運動提唱者、山本鼎の言葉として自由画教育運動発祥の地、上田市立神川小学校にある山本鼎顕彰碑に刻まれています。

ヨーロッパでの遊学から戻った山本は、大人の美観を早く子どもに植え付けること目的とする臨画による教育に対して、子どもが自らの眼で見て感じ、それを表現することの大切さを説いています。そこにはヨーロッパ社会での新たな芸術運動との出会いとともに、人間観の広がりもありました。自由画教育運動とは、学校の中だけで通用する価値観ではない、大正期の新たな社会改革や芸術活動による教育運動であると言えます。

視点を現代の令和期に移してみると、ICTを中心とする社会改革の波は学校の壁をたやすく乗り越えて、教室の隅々まで到達しようとしています。その速度が人々の予想を超えているだけではなく、十分な吟味の時間さえもない状況で、子どもたちの学習活動はもちろん、生活のあらゆる場面に浸透してきています。ネット環境から提供される様々なリソースは容易く手に入れることができ、その利便性はもう後戻りすることは不可能な状況にあります。「本物と触れてみよう」、「その場に行ってみよう」などの言葉が少なくなりつつあるDX時代の令和期において、山本の「自分が直接感じたものが尊い」の言葉は、大正期とは違ったそして、さらに重要な意味を持っていると言えます。ICTを通じて大量に提供される情報は、すでに何らかの意図や意思によって成立しています。場合によっては、わかりやすく、面白く、関心が集まるように脚色されていることもあります。DX時代であっても学びの基本は、自らの身体性を通して直接見て、聞いて、体験することにあります。それらは情報に誘導されない思考を生み出します。学校と社会とを隔てる壁が低くなる時、学校での学びとは何か改めて考える必要があります。その時、令和の「自分が直接感じたものが尊い」は一層輝いてきます。

令和6（2024）年度第14回定時総会 招集通知

総会記念講演会及び定時総会を、下記の要領で開催いたしますので、会員の皆様はご出席のほどをお願いします。

□日 時：令和6（2024）年5月12日（日）

□場 所：東洋大学白山キャンパス5号館1階5104教室（予定）

□総会記念講演会（一般公開）13：30 - 15：00

講演者：合田哲雄 文化庁次官

演 題：「今、そしてこれからの教育を考える」

方 法：対面及びオンライン配信により開催

詳細は連合ホームページにて、また接続についてはpeatix日本美術教育連合

<https://peatix.com/group/7506961> にアクセス

□定時総会（会員のみ）15：15 - 16：15

方 法：対面及びオンライン配信により開催

ZoomミーティングID：871 8895 5967 パスコード：357499

議 案：①第8期役員選出 ②令和5（2023）年度事業報告

③令和5（2023）年度決算 ④報告事項

総会議案書は、4月末より連合ホームページにて公開

出 欠：ご欠席の場合は、同封の委任状を必ずご送付ください。

研究局より

■第57回 日本美術教育研究発表会2023 実施報告■

日本美術教育連合理事・研究局運営委員長 結 城 孝 雄

概要

実施日時：令和5（2023）年10月8日（日曜日）9：00－16：00

会 場：東洋大学 白山キャンパス 6号館2F 6212-6216講義室 6203 6204講義室

後 援：文化庁

参加人数：総人数106名

（内訳 一般会員81名 学生会員8名 一般参加14名 一般学生3名）

（内訳 大学教員54名 高校教員2名 中学教員9名 小学校13名 幼児4名

管理職2名 大学院生12名 大学生6名 一般4名）

発表件数：38件（内訳：単独28件 共同10件 対面28件 オンライン10件 海外英語発表2件）

投稿論文件数：（29件）

状況

コロナ禍を脱して通常の対面の研究発表会に5年振りに実施しました。加えて、オンライン併用のハイフレックス方式、海外研究者による英語での発表とこれまでにない研究発表会の形式が行われました。

会場校として、北澤理事のご尽力により東洋大学白山キャンパスが準備されて、快適な環境の元、支障なく開催出来ましたこと厚く御礼申し上げます。

また、運営に関わり、事前のリハーサルを担当者していただきました研究局運営委員の皆さん、当日運営に携わっていただきました全ての運営委員、支援学生の皆さんにも厚く感謝申し上げます。

対面、オンライン併用のハイフレックス方式では、運営に多くの労力を必要とし、通信接続状況など不慣れな中で確実な運営を担保することが求められます。発表者、運営者、参加者の皆様のご協力にて、滞りなく実施できました事、来年度も継続して実施できますようよろしくお願い申し上げます。

**第57回
日本美術教育
研究発表会2023
A会場**

実施日時：2023年10月8日（日曜日）
9：00－16：00
会場：東洋大学 白山キャンパス 6号館2F
6212-6216講義室 6203 6204講義室
後援：文化庁

公益社団法人 日本美術教育連合

セキュリティの確保

- ・ アクセス情報を他者に知らせないこと。
- ・ 発表者の発表データを無断流出しないこと。
- ・ 参加者の肖像を無断で流出させないこと。

参加者の顔写真実行の原則

- ・ Accessコードを他者に知らせない。
- ・ 研究発表の発表資料を無断で画面から記録しない（発表者が許可する場合はこの限りではない）。
- ・ 参加者の肖像を記録しない。
- ・ 発表進行への協力

発表者の著作権と肖像権の確保

- ・ 発表者は、著作権を遵守し、肖像権を尊重した発表を実施すること。
- ・ そのために使用する画像、データ等、著作権・肖像権に抵触しないこと等の事前確認すること。
- ・ 参加に際しては、これを承認されたものといたします。

注意事項

- ・ 各入室の際は、チャットに所属と名前を明記ください。
- ・ ご質問は、随時チャットにご記入ください。質疑応答の際にこの順序でご発言いただきます。その際は、所属とお名前をお願いします。
- ・ 質疑終了の際は、時間終了後、次の発表準備が始まるまで継続可能です。
- ・ 午前15分15分 20分20分 発表停止 質疑応答 15分15分開始 25分発表終了

事業局より

■「造形・美術教育力養成講座」2023活動報告■

日本美術教育連合理事・事業局運営委員長 三 澤 一 実

造形・美術教育力養成講座では「越境し拡張する美術」を講座のコンセプトと位置づけ、対面による講座が可能となった本年度は「体験が生み出す新たな視点」をテーマに全3回の連続講座を開催しました。

■第1回講座 「プロに学ぶ写真表現との出会い」

- (1)日時／会場：令和5（2023）年11月11日（土） 13：00～15：00／武蔵野美術大学
 (2)内容／参加者数：講演とワークショップ／24名
 (3)講師：栗栖誠紀、鈴木英雄、小口隆志。（公益社団法人日本広告写真家協会学校教育事業部）
 (4)概要報告：初めに3名の講師から自己紹介を兼ねて、広告業界で活躍する講師の作品紹介と撮影にまつわるエピソードなどが語られました。次に全国造形教育連盟との共催で始めた「図工・美術授業にカメラ」の取り組みの様子が紹介され、美術の授業におけるカメラの活用についての話がありました。ワークショップでは写真撮影の基本的な知識と技能を身に付け、一眼レフカメラを使って持参した小物を撮影しました。最後に講師から参加者が撮影した写真の講評（写真右）を経てワークショップが終了し、参加者からは「写真撮影のコツも理解できて充実した講座でした」などの感想がありました。

■第2回講座『『つくる』でつなげる遊びと学びの構築
—AkeruE アルケミストプログラムの取り組み—

- (1)日時／会場：令和5（2023）年12月3日（土） 14：00～16：00／パナソニックセンター東京
 (2)内容／参加者数：講演とワークショップ／22名
 (3)講師：鈴木純平（unworkshop主宰/AkeruEプログラムディレクター）
 (4)概要報告：令和3（2021）年にパナソニックがオープンした施設「AkeruE」において館内見学と鈴木氏による取組の紹介、ワークショップ体験を実施しました。同施設で展開される「アルケミスト」プログラムに参加する子ども達が、自分の好きなものや得意なことから企画を立て、プレゼンし、実用化・活動化して社会と接続するという活動の特色について紹介があり、その一部をワークショップで体験しました。アルケミストで「スライム料理研究家」として活躍する小学生LISA氏による生き生きとした活動紹介のプレゼンテーションが（写真右）が印象的でした。



■第3回講座「美術館との新しい出会い～更新し続ける美術鑑賞」

(1)日時／会場：令和6（2024）年1月20日（土）13：00～15：00/東洋大学

(2)内容／参加者数：講演とワークショップ／22名

(3)講師：一條彰子(独立行政法人国立美術館 国立アトリサーチセンター ラーニンググループリーダー)

(4)概要報告：最初のレクチャーでは日本のアート振興の新たな拠点である国立アトリサーチセンターの概要説明及び、国立美術館でのこれまでの鑑賞活動の事例紹介が行われました。その後グループに分かれ、アートカードを使い参加者相互の自己紹介、名探偵ゲーム等のアクティビティを体験しました（写真右）。休憩をはさみ、国立美術館の所蔵作品をネット上で閲覧できる「鑑賞素材BOX」を使って、北脇昇の作品「クォ・ヴァディス」で対話を通じた鑑賞を行いました。講座後に行ったアンケート結果では、これまで日本の美術鑑賞を牽引してきた一條氏の講演及びワークショップに対して、参加者の高い満足度が示されました。



■令和6（2024）年度総会記念講演のお知らせ■

令和6（2024）年5月12日（日）13：30～15：00東洋大学 白山キャンパス

「今、そしてこれからの教育を考える」合田哲雄文化庁次官



1970年生まれ。1992年文部省入省。福岡県教育庁高校教育課長、国立大学法人化（2004年）や2008年学習指導要領改訂の担当、NSF（全米科学財団）フェロー、高等教育局企画官、初等中等教育局教育課程課長、内閣官房内閣参事官（人生100年時代構想推進室）、初中局財務課長、内閣府・審議官等を経て2022年9月から現職。兵庫教育大学客員教授、東北大学非常勤講師。単著に『学習指導要領の読み方・活かし方』（教育開発研究所）、共著に『学校の未来はここから始まる』（教育開発研究所）、『探究モードへの挑戦』（人言洞）。目黒区立の小中学校のPTA会長を6年間経験。

2度の学習指導要領改訂に関わった合田哲雄氏は、常に未来の教育のあり方を見つめ、今日、学校教育の未来を語る上でもっとも重要な一人といえます。人生100年時代と言われる今日、「文化はすべての人の尊厳ある生活にとっての必需品」とも話されています。またアンラーン（すでに身につけている知識や価値を捨て常に新鮮な目で世の中を捉え直す）ことの重要性も語られています。まさに美術教育が得意としているところではないでしょうか。

HPおよびpeatixにて申し込み

詳細が決まり次第、日本美術教育連合HPに掲載いたします。また事前にpeatixに登録いただき、日本美術教育連合をフォローしていただければ、本講演及び今後の事業局のイベント通知がメールにて届くようになります。是非登録してフォローをお願いします。下記URLまたは右QRコードからpeatixページにアクセスしてください。

peatix日本美術教育連合 <https://peatix.com/group/7506961>



事業局より

■造形・美術教育フォーラム 2023 活動報告■

日本美術教育連合理事・事業局運営委員長 三 澤 一 実

本年度の造形・美術教育フォーラムは、「地域文化の視点からこれからのアート教育を考える」とし、合同会社文化commons研究所 代表吉本 光宏氏をお招きして、下記の要領で開催いたしました。

日 時：令和6（2024）年2月12日（月）13：00～15：00

会 場：武蔵野美術大学市ヶ谷キャンパス（対面）およびZoomオンラインシステムによる

参加者：対面 13名 Zoom参加 55名

講演内容は、第一部として、「複雑化する社会と文化芸術」として、マイノリティ、人口減少と超高齢化など、現代が直面している社会問題から、その課題に向き合う文化・アートのちからについて解説をいただき、第二部は、「アートと教育の出会いから生まれるもの」として、日本および世界で行われているアウトリーチの広がりや定着について具体的な活動例を、映像動画を使って紹介していただきました。ジャンルとしては、ダンス（愛知県豊川市）、演劇（長崎市立畝刈小学校）音楽（兵庫県朝来市）ほか、特別支援学校、少年院の取り組みなど多様な実践から、アートの持つ力、アーティストとの連携の実際を学ぶことができました。さらに諸外国の例として、英国Creative Partnershipsや米国 Carnegie Hallや英国 DANCE UNITEDの例を紹介していただき、青年期における活動としてとても参考になる例でした。第三部は、「アート教育の効果と展望」として、これらの活動の持っている意味や意義、さらにはこれからの方向などについて、論理的にまとめた内容も提示していただきました。



また、参加者からは以下の様な感想と高評価4.4（5段階）をいただいた内容でした。



- ・複雑化し、行き詰まりを見せている厳しい社会の中で、アートによる教育的な関わりが社会の中で果たすことのできる可能性を、あらためて確認することができました。（会員）
- ・芸術教育についての知見が広がったから、そしてこれからの学校教育に求められるアクションについての示唆に富んでいた。（一般）

- ・今回はあえて「美術以外の芸術分野がどのように社会の教育に交わって取り組みが行われているのか」を取り上げられたことで、自分が今まで学んできたことや見てきたこと以上の話を聞けて大変学びになりました。（学生）

国際局より

■ InSEA (国際美術教育学会) の活動より - ウェビナーのご案内 ■

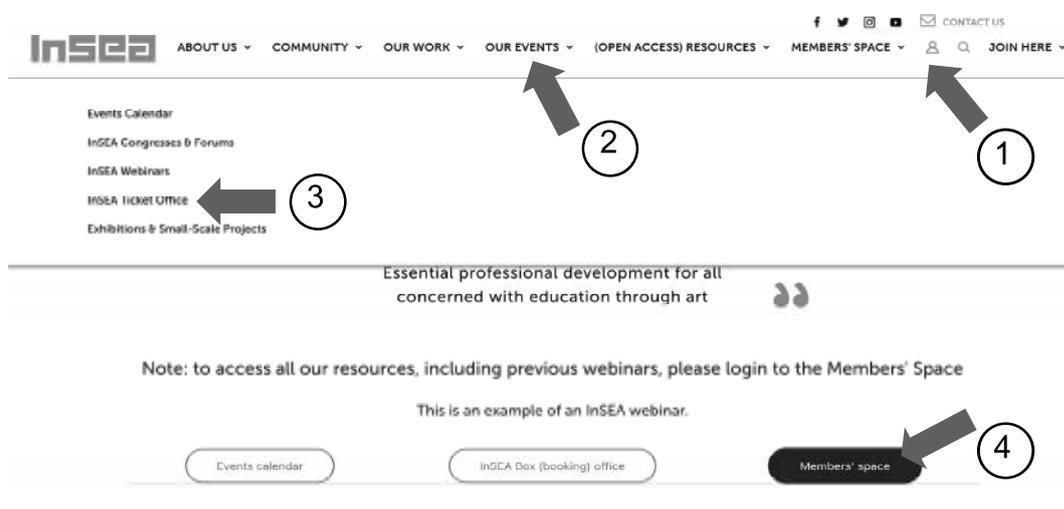
国際局局員 (InSEAアジア代表世界評議員) 片 桐 彩

InSEAは、今年で設立70周年を迎えました。これを記念して今年は毎月1回程度のペースでウェビナーが開催されています。ウェビナーは、会員向けですが、公式のものから非公式のものまで様々あります。企画チームでは、会員の皆様楽しんでいただけるように、アイデアを練り計画しているところです。

第1回目のウェビナーは、1月に行われた理事会メンバーによる非公式のものでした。グレン・クーツ会長を始め6人の理事会のメンバーが、美術や美術教育との関わりについて自身の経験をもとに講演をされました。その後、これまでに2回の公式ウェビナー（アフリカ及び中東地域主催、北アメリカ地域主催）が開催されています。アジア地域評議会チーム（ARC: Asia Regional Council）でも、5月にウェビナーを主催する予定です。その中で日本の研究者・教員の講演も予定しておりますので、皆様、何卒よろしくお願い致します。

チケットのお申し込み方法についてご紹介させていただきます。まず、①InSEAウェブサイトログインして下さい。②メニューバーの「OUR EVENTS」をクリックし、③「InSEA Ticket Office」〈<https://www.insea.org/insea-box-office/>〉からお申し込みが可能です。参加は無料ですが人数には限りがあります。主催する地域の時間でスタートしますので、開始時間をご確認の上、お申し込み下さい。

尚、ウェビナーの様子は録画され、InSEAのウェブサイトにて会員向けに公開されます。ご予約が合わずに参加できなかった会員の皆様も、後日動画でご覧いただけます。その際は、上記「OUR EVENTS」メニュー → 「InSEA Webinars」を選択し、④「Member's space」をクリックすると録画された過去の動画リストにアクセスいただけます。オンタイムのご参加が難しい場合には、こちらも便利です。



■理事候補者選出選挙の開票結果報告■

第8期選挙管理委員会委員長 山田 一美

「公益社団法人日本美術教育連合定款第25条」に定める役員の任期満了にともなう理事候補者選出選挙は、新しく制定・施行された「理事候補者選出選挙に関する申し合わせ事項」（令和5（2023）年1月22日理事会確認）、及び「理事候補者選出のための選挙管理委員会及び選挙業務に関する申し合わせ事項」（令和5（2023）年1月22日理事会確認）をもとに実施された。以下、その概要と結果を記す。

まず、令和5（2023）年6月11日の第3回理事会において第8期選挙管理委員会が設置され、「連合ニュース」（同年7月1日付）において第8期理事候補者選出選挙が公示された。選挙管理委員は以下の者である。

山田 一美（委員長）、小林 貴史（委員）、手塚 千尋（委員）

その後、選挙業務遂行上の実態に合わせて「理事候補者選出のための選挙管理委員会及び選挙業務に関する申し合わせ事項」の一部を改正し、臨時理事会及び運営委員会（令和5（2023）年10月12日）で承認を得た後、被選挙人名簿の作成に入っている。次に、第5回理事会及び運営委員会（令和5（2023）年11月12日）において、選挙人（兼）被選挙人名簿の承認を得て、投票用紙を11月下旬に有権者に郵送した。国内居住者数（228）、国外居住者数（1）である。投票期間・投票方法は以下の通りである。

□投票期間：令和5（2023）年12月上旬（投票用紙受取日）～令和5（2023）年12月31日、消印有効

□投票方法：同封の返信用封筒による郵送投票（15名以内の投票）

なお、開票作業は、下記の日時・場所・実施者において適正に行われた。

○開票日時：令和6（2024）年1月6日（土）13:00～17:00

○開票場所：〒108-8636 東京都港区白金台1-2-37

明治学院大学白金キャンパス、13号館 造形実習室

○開票作業：第8期選挙管理委員（3名）

○立会人：久保木 健夫（会員）

【開票結果概要】

①有権者数：229名（前回229名）、投票用紙送付先：国内228、国外1、②投票率：39.30%（前回40.17%）、③消印有効投票封筒数：88、④消印無効投票封筒数：2（2024年1月の消印のため）、⑤投票用紙総数：88（前回92）、⑥無効投票用紙数：2（前回2（16名以上の投票のため））、⑦有効投票用紙総数：86（前回90）、⑧有効得票数：828（前回950）。

得票数の確定後、選挙管理委員会は、得票数の集計表を封印・保管した。その後、理事会及び運営委員会（令和6（2024）年1月21日）の対面会議場で、選挙管理委員（山田・小林・手塚）3名が出席し、立会人（久保木）同席のもと、封印した得票数集計表を開封して得票数と得票数上位者5名を確認し理事会に報告した。理事会は得票数上位5名を理事候補者として承認し、運営委員会に報告した。選挙管理委員会は、運営委員会に開票の経緯と結果を報告した。

得票結果は以下の通りである。その後理事会は得票数上位5名に対し、理事候補者として委嘱した結果、第2位（42票）の得票者1名が辞退したため、この時点で委嘱を受諾した被選挙人は4名である。

【得票数上位5名の氏名・得票数】

第1位・三澤 一実（44票）

第2位・大坪 圭輔（42票）

第2位・委嘱後の辞退者（42票）

第2位・西村 徳行（42票）

第5位・手塚 千尋（39票）

※敬称略

「理事は会員の投票により、当分の間、得票数上位5名とする」（理事候補者選出選挙に関する申し合わせ事項）規定に従い、選挙管理委員会は、立会人同席のもと臨時理事会（令和6（2024）年2月2日、オンライン方式）に応じて次点となる得票数第6位（36票）の会員氏名を確認・報告した。しかし、会議に同席の当人より辞退の申し出あり、選挙管理委員会は、臨時理事会の要請を受け、得票数第7位（34票）の会員氏名を確認・報告した。

その後、選挙管理委員会は、理事会から第7位の得票者が理事候補者を辞退する報告を受け、臨時理事会（令和6（2024）年2月13日、オンライン方式）にて、得票数第8位（29票、同数2名（男性と女性））を確認・報告した。得票数同数への対応について、上述の「理事候補者選出選挙に関する申し合わせ事項」の「8. 理事候補者選出選挙において、投票数が同数の場合は、理事会におけるジェンダーの観点を踏まえて調整する。」ことを確認し、開票立会人による次点者決定の抽選は行わず、畑

山未央氏を理事候補者として推薦することが承認された。その後、理事会の委嘱に対して畑山未央氏が推薦を受諾したため、本委員会は第8期理事候補者5名が選出されたことを確認し、会員皆様にご報告したい。最終的な理事候補者は、以下の5名である。

【理事候補者】

大坪 圭輔、手塚 千尋、西村 德行、畑山 未央、三澤 一実

(敬称略)

なお、選挙管理委員会は、選挙結果を選挙の行われる翌年の総会にて報告する予定である。

以上

事務局より

■事務局便り■

事務局長 畑山 未央

□会員の異動

〈退会者〉

仲瀬律久様、海野阿育様、高橋敏之様、小池研二様

(これまで連合を支えていただき、ありがとうございました)

〈入会者〉

高橋文子様、中條秀憲様 (これからどうぞよろしくお願いたします)

□『日本美術教育研究論集 第57号』が発刊されました

すでに会員の皆様のもとに届けられていることと思いますが、今号の論集は21本の優れた論文と2本の海外研究者の発表抄録を掲載することができました。ご執筆いただいた皆様には深く感謝申し上げます。会員の皆様におかれましては、本年度も積極的に研究発表・論文執筆をご計画いただきますようお願い申し上げます。



□令和5（2023）年度の会費納入をありがとうございました

本会の運営は、公益に資することを第一の目的として、会員皆様方の貴重な会費によって成り立っております。会員・賛助会員の皆様のご協力により、昨年度も「第57回日本美術教育研究発表会2023」「造形・美術教育力養成講座」「造形美術教育フォーラム2023」を開催し、それぞれ大きな成果をあげることができました。引き続き、皆様のご理解を賜りますようお願い申し上げます。なお、3年連続会費未納入の会員様につきましては、残念ながら「退会」の対応をとらせていただくことになります。昨年度の会費をまだお納めいただいていない方は、至急ご入金いただきますようお願い致します。また、異動や住所変更等の際には、下記事務局まで、メールにてご一報いただければ幸いです。

○昨年度（2023年度）会費未納の方は、急ぎ会費6,000円を下記まで納入してください。

（*本年度（2024年度）の会費納入については、次回のニュース171号（7月発行予定）にてお願いする予定です。）

【郵便振替】（公社）日本美術教育連合 郵便振替00170-1-86036

※ゆうちょ銀行以外の金融機関（ネット銀行を含む）からの振込先※

《銀行名》ゆうちょ銀行《支店番号》019《預金種目》当座《口座番号》0086036

○お問い合わせ先（事務局）

植草学園大学 畑山未央（E-mail m-hatayama@uekusa.ac.jp）

■令和6（2024）年度第14回定時総会 招集通知■

令和6（2024）年度第14回定時総会を下記のように開催いたします。総会前には記念講演会を行いますので、あわせて多数ご出席くださいますようお願い申し上げます。

■日時：2024年5月12日（日）午後15：15～16：15（※記念講演会後の開催です）

■場所：東洋大学白山キャンパス5号館1階5104教室（予定）

■方法：対面及びオンライン配信により開催

- ・ミーティングID：871 8895 5967 / パスコード：357499（会員専用）
- ・URLは連合ホームページに掲載します。上記ミーティングID、パスコードを入力の上、入室してください。
- ・オンライン参加の際、ニックネームでの入室をご遠慮ください。お名前を確認の上、入室を承認いたします。

■定時総会「出欠はがき」の提出にご協力ください

総会成立の可否は、公益社団法人法によって厳密に規定されています。必ず同封の「出欠はがき」（委任状含む）を返送していただきますようお願い申し上げます。

*総会議案は5月1日以降、連合ホームページ(<https://insea-in-japan.or.jp/>)に掲載します。

■令和6（2024）年度総会記念講演会■

■日時：5月12日（日）午後13:30～15:00（※総会前の開催です）

■方法：対面及びオンライン配信により開催（URLなどは、後日、連合ホームページ等で発表）

■お申込み：Peatix/QRコードよりアクセスして申し込み

■講演者：合田哲雄（文化庁次官）

■演題：「今、そしてこれからの教育を考える」

■参加費：無料（会員以外の方の参加も大歓迎です。お知り合いの方に広く呼びかけていただければ幸いです）